



東北芸術工科大学

連携自治体：山形市

事業名：創造力と想像力による地域課題解決人材育成と地域新価値創造事業

事業の概要・目的

(地域の課題)

連携自治体の課題(平成26年度申請時点)

- ・急速に進展する人口減少問題の解消
- ・独自ブランド化による産業の振興
- ・中心市街地の活性化
- ・観光振興による交流人口の増加

(課題解決のための大学の取組)

教育	<ul style="list-style-type: none"> ●社会汎用能力科目群の新設 ●地域を志向した課題解決型科目の新増設 ●地域創造実践科目の充実 ●地域志向教育FD委員会の設置
研究	<ul style="list-style-type: none"> ●創造性開発教育プログラム共同研究 ●「ユネスコ創造都市ネットワーク」加盟のための共同研究 ●持続可能な街なか再生共同研究 ●「文化遺産マネジメント」手法研究 ●アート・デザインによる地域産業高付加価値化支援
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ●観光・文化振興に資する市民リーダーの育成と、アートを介した活動・交流人口増 ●市民芸術家の養成とコミュニティの形成 ●中学校地域課題解決力育成プログラムの開発支援

人材育成の取組

(人材育成像)

- 芸術・デザインの潜在力で、人口減少期の地方の「新しい豊かさ」を創造する人材
- 地域の課題を理解し、創造的に解決する実践力をもった人材
- 創造を論理的に分析、他人と共感できる力、総合的に物事を考えられる力、その目的や意義を追求する能力など、「社会汎用能力」を備えた人材

課題に対する大学の取組

課題に対する大学の取組	26年度	27年度(予定)	30年度(目標値)
地域に関心を有する学生の割合	25%	50%	80%
連携自治体内での就職率	45%	50%	75%(150人増)
連携自治体を意識した教育	10%	20%	60%
連携自治体の課題に関する研究	5%	10%	30%

(目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

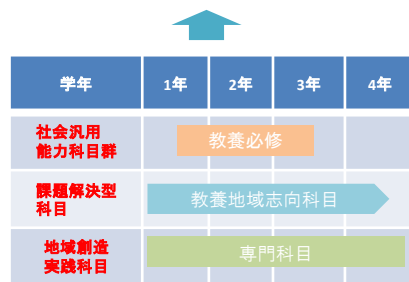
- 社会汎用能力科目群:教養科目として1年次後期から3年次前期に6科目6単位を必修化 →実社会で求められるジェネリックスキルを修得する
- 課題解決型科目:教養科目に選択必修区分「地域志向科目群」を新設し、「地域課題」12科目から4単位、「文化遺産マネジメント」8科目から4単位を選択必修化 →人口減少期における地域課題を抽出し、課題解決に必要な基本的な手法を学び、PBL型演習にて実践する
- 地域創造実践科目:全学科の専門科目にて既存の地域の課題と連動した科目と、新設する科目を体系化 →デザイン工学部は2~3年次演習で地域、企業の実際の課題を扱う演習を必修化、芸術学部は市民参加アートWSや地域文化財修復などを実践

(現在の取組)

- 地域思考を明示した科目の開講 7科目・14単位
- 事例1(全学専門科目/各2単位)
「東北学A」(平成26年後期開講)
日本の古代において、歴史的に東北とはどのような存在だったか、東北のこれからを考える思考方法を鍛錬する。
「文化財保護法」(平成26年後期開講)
各地で多くの話題を提供している遺跡の発掘調査や文化遺産の破壊・修復等の文化財保護に関わる国内の基本法である、文化財保護法を学び、文化財の保存と活用のあり方について、研究事例をあげて学生間で討論を行う。
- 事例2(全学教養科目/1単位)
「ロジカル・シンキング・ライティング」(平成26年後期開講)
論理課題を、他者との対話等さまざまなコミュニケーション手段を用いて検討し、その結果を発表・プレゼンテーションしていくことにより、他者の論理を理解し、事実・仮説を踏まえてコミュニケーションできる人材になることを目指す。

(卒業後の学生のイメージ)

- ① 地域づくりと人づくり、リノベーション建築に関わる公務員、デザイン会社、建築会社で活躍
- ② 地域産業の高付加価値化に寄与するマーケティング、製品デザインなどの知識を生かし物作り企業、農協、サービス産業で活躍
- ③ 文化遺産マネジメント、アートイベント創出、地域ブランディングなどの知識を生かし、観光産業、NPO法人で活躍



(地域志向カリキュラムの特徴)

- [社会汎用能力科目群]
全学教養科目に必修区分として新設し、課題解決に必要なとなる論理的思考法、アイデアを他者にわかりやすく伝えるためのコミュニケーション能力など実社会で求められるジェネリックスキルを育成
- [課題解決型科目]
全学教養科目に「地域志向科目群」を新設し、選択必修区分として「地域課題」、「文化遺産マネジメント」を設け、人口減少期における地域課題を抽出し、課題解決に必要な基本的な手法を学び、PBL型演習にて実践する
- [地域創造実践科目]
既存の地域の課題と連動した科目と、今回、新設する科目を体系化し、全学科の専門科目に展開する。デザイン工学部は2~3年次の演習で地域、企業の実際の課題を扱う演習を必修とし、芸術学部も市民を絡めたアートWSや地域の文化財修復などを「地域創造実践科目」として展開

東北芸術工科大学との協働の地域の新しい豊かさの創出



山形市企画調整部企画調整課 課長補佐(兼)共創係長

五十嵐 洋

山形市では、市民・事業者・行政の3者が互いに連携し、それぞれが適切な役割を担いながら持続可能な循環型社会の構築を目指す「共創のまちづくり」により、各施策を展開しております。この度のCOO事業については、そんな「共創のまちづくり」に合致するものと期待しているところです。例えば、山形市には戦災等の影響を免れた歴史ある建造物があります。それらを東北芸術工科大学の創造力により活用できれば、中心市街地の活性化や観光客の増加につながると思います。また、学生の皆さんが卒業後も山形に貢献・定着できる人材の育成についても期待しています。

「蔵」再生プロジェクトによる地域づくり



東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科2年

須藤 由人

山形市内の空き蔵を、新しい視点で捉え直して再生させようという試みを行っています。蔵の清掃を手始めに、実測・模型製作を行い、蔵主さんや地元の人たちの要望を取り入れながら企画コンセプトを決めて、模型などを使ってプレゼンテーションを行っています。さらに地元の教育委員会や研究会の方々と連携を取りながら、イベントなどを実施するなど、蔵の再生を通して、これからも地域づくりに貢献してゆければよいと思っています。